

※掲載している授業科目、所属等は2014年度の情報です。

教養科目群

文化の比較を通して
常識を疑い、あらゆることに
自分なりの意見を持つように。

西山 雄二 准教授
(都市教養学部 人文・社会系 国際文化コース)

時代や社会に向き合う多彩なテーマで、幅広い教養、総合的思考力、問題解決能力を育てるのが教養科目群です。「フランス語圏の文化」を担当している西山先生に、その授業内容と目標について聞きました。

「フランス語圏の文化」はどのような授業で、
どのようなことを目標にしていますか？

この授業は主に全学部の1年生を対象に開かれています。人文科学系の学生、特にフランス語を専攻している学生が履修することが比較的多いですね。フランス語を学んでいないと理解できないという科目ではないし、ドイツ語や中国語といった他の言語を専攻している学生も履修しています。授業は毎回異なったトピックを題材にして進めていきます。フランスの文化といえば料理や芸術を思い浮かべる人は多いですが、それだけでなく教育制度や家族制度、移民問題、電力の7割を占める原発問題、多くの若者が参加するデモについて、日本でも話題になった風刺画についてなど、幅広い分野をテーマに選んでいる点の特徴です。また、単にフランス文化を紹介するだけでなく、すべてのトピックにおいて日本との比較を行うようにしています。日本に似ている部分もあれば大きく異なる部分もあるフランスは、文化の在り方や、私たちが常識と思っていることがグローバルな視点で見れば常識とはいえないということを知るのに、最適な比較対象だと思えます。



授業ではどのようなことに取り組み、
どのような改善を行っていますか？

毎回の授業ではトピックについて説明し、学生には質問をしてもらったり授業の終わりに必ずコメントを書いてもらうようにしています。かなり長いコメントを課しているの、単に授業内容についてまとめるのではなく、自分なりの考えを深めないで埋めることはできません。また、学生討論の回も2コマ設置し、そのうち1回はフランスからの留学生を招いて対話をしてもらいます。彼らは政治的な意見も明確だし、デモへの参加経験もあります。同世代でありながらその違いに驚かされるはずですよ。

この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に
伝えたいメッセージはありますか？

この授業で学ぶことでフランスの文化についての理解を深めるだけでなく、それを通して日本の文化の在り方を、あらゆる角度から考え直す力を身につけてほしいと思います。日本は全体としては素晴らしい国ですが、ある部分においてはまだまだ遅れているのが現状です。女性の社会進出が欧米よりも遅れていることはニュースで聞いたことがあるかもしれませんが、たとえば表現の自由についても、実は先進国レベルには達していないというデータもあります。皆さんが当たり前と思っていることの中にも、世界から見れば奇妙に映ることは少なくないかもしれません。世界との距離が近くなった今、そうした違いを知り、自分なりの意見を持つことが求められているはずですよ。

学習
サポート
企画

理工数学相談室

大学院生が
勉強の疑問を
しっかり指導

2009年度～2011年度の文部科学省・大学院GP事業に始まり、2012年度～2013年度に実施した本学教育改革推進事業「数理科学を基盤とした理工横断型人材育成システム」の後継事業の一つとして、GPアシスタントの自主的な活動として運営している理工数学相談室。実際にどのような活動をしているのか、GPアシスタントとして指導する大学院生に聞きました。



GPアシスタント
池田 崇さん
理工学研究科数理情報科学専攻博士前期課程1年
僕自身、大学入学直後に数学で分からないことがあったときに、GPアシスタントの大学院生にアドバイスをもらい、とても役立ちました。後輩たちにもこの制度をぜひ活用してもらいたいですね。

今回
答えて
くれたのは……

理工系の勉強の疑問を、私たち
GPアシスタントが解決します。

Q 理工数学相談室ではどのようなサポートを行っているのですか？
またGPアシスタントはどのようなことを担当しているのですか？

A 理工数学相談室は1号館の206教室で月、火、水、金曜日の5限を使い、数学・電気・機械科目に関する学部生からの質問に、GPアシスタントが答えるという活動を行っています。常駐するのは僕のような数理情報科学専攻や機械工学専攻等の大学院生。大学院で専門分野を深める際に基礎的な知識が必要になりますが、相談室で指導することが自己のリフレイン教育にもなっていると思います。教えることは一番の勉強法なのだと、最近実感しています。

Q どのような質問を多く受けますか？また、相談を受ける際に気をつけていること、心がけていることはありますか？

A 微分積分や線形代数など、教養数学の質問が多いですね。また、ただ解いてしまっただけでは学生のプラスにならないので、あえて答えるのすべてを教えるのではなく、方針や解き方といったヒントに留めておくよう心がけています。



Q 理工数学相談室のお薦めの利用法はありますか？また学部学生の皆さんに
伝えたいことを一言お願いします。

A 試験前の利用が多いのですが、日頃から分からないことがあれば利用してほしいですね。また皆さんの先輩にあたる大学院生が指導しているので、勉強のことだけでなく進路に関する疑問や悩みなど、気になることは聞きに来てほしいと思っています。

担当教員より一言

倉田 和浩 教授



専攻を超えた理工の大学院生の連携協力体制で、「教える」ことでGPアシスタント自身の「リフレイン教育」ともなるよう自覚してもらいつつ、数学を中心とした理工基礎科目の相談に対応してもらっています。大学院生ならではの目線で、ていねいで実践的なアドバイスが好評で、リピーターも多いようです。現在限られた時間帯での開室ですが、ぜひもっと多くの学部の学生さんに積極的な活用をしてほしいと願っています。

編集後記

「Study+」第2号はいかがでしたか？今回の取材を通して、先生や院生スタッフが、学生との「対話」から得られる新鮮な発見を楽しんでいるように感じました。学期末の授業改善アンケートは、皆さん自身が授業を振り返り、その授業の中で、自分から「対話」の機会を作ることができたか、学びを深めることができたかを考えるきっかけになります。年1回発行というのんびりペースですが、これからも皆さんの学びにつながる情報を発信していきます。ぜひ、FDのホームページも覗いてみてください！

FD委員会事務局

Study+ 2015春号(第2号) 編集発行:首都大学東京FD委員会
URL: http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

登録(27)10

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

深い学びにつなげる [スタディプラス]

Study+

Vol.02
2015.SPRING

授業改善アンケートから 学生・教員の声をお届けします。



授業改善 裏側潜入 レポート	授業の裏側で 先生はどんな 工夫をしているの？	
2014年度版 授業改善 アンケート	みんなは どう思っているの？ 授業改善アンケート の集計結果発表！	
知らない？ ソソる!?	理系だけ 数学が苦手……。 院生から解き方の ヒントをもらいます！	

授業
改善

裏側潜入レポート

基礎ゼミナール



身近な問題となった原発。
その在り方を、各学生の
意見を通して考えていく。

吉田 博久 教授
(都市環境学部 分子応用化学コース)

問題点の理解と解決の技法を学ぶのが「基礎ゼミナール」です。ここでは、所属の異なる学生がそれぞれの立場で原発問題を考える吉田先生の授業を通して、学びを深める仕掛けを探ります。

「基礎ゼミナール」はどのような授業で、
どのようなことを目標にしていますか？

基礎ゼミナールは1年の全学生必修の授業です。文系・理系に関わらず希望のゼミナールを選び、学んでいきます。ゼミナール形式の授業というのは大学での学びの特徴的なもの。年次が上がると学生各自が自分の専門分野について、ゼミナールを通して自主的に深く学んでいくことになりませんが、1年次の基礎ゼミナールにはその学び方を学ぶという側面もあります。私の授業では2、3名ずつグループを作ってもらい、与えられたテーマについて情報を収集。その調査結果をまとめた上で発表してもらいます。グループのメンバーはなるべく文系と理系の学生両方に加わるように配慮し、活発な意見交換ができるよう心がけています。この授業を通して幅広い視点を身につけてもらうことと同時に、ネット等にあふれている情報の中からどのように信頼できるものを見つけるかといったことも学んでもらいたいですね。

授業ではどのようなことに取り組み、
どのような改善を行っていますか？

私の基礎ゼミナールのテーマは「原子力発電をどうするか:エネルギーと物質の観点から考える」です。東日本大震災以降、原発についてはいろいろな議論がされてきました。私の基礎ゼミナールに参加する学生には、「原発問題があったからこそ、より安全で有効な技術を研究・開発しなければならない」と考える理系の学生や、「原子力発電に頼らない社会を一日も早く作ることが重要」と考える文系の学生もいます。何が正しいというよりも、多くの考えに触れることが重要で、その上で自分なりの考えを持ってもらいたいと思っています。また、エネルギー問題は専門用語も多く、どういうキーワードから調べればいいのか分からないという意見もあったので、授業の冒頭部分でその糸口を理解してもらえるよう、話す内容にも配慮しました。



この授業で今後取り入れたいこと、また授業を履修する学生に
伝えたいメッセージはありますか？

環境問題と一口に言っても、地球レベルの問題から自宅の周りのことまで、学生によってイメージもまちまちです。ただ、どのレベルの環境問題であっても考えなければならないのは物質収支であり、二酸化炭素の排出量と廃棄物の量削減です。それらについて広い視点で考えられるようになってもらいたいということ、10年後にどのような環境の社会に住んでいきたいかをイメージしてもらいたいですね。10年といえば社会人となり、人によっては家庭を持っているかもしれない。どんな環境の中で家族と暮らしたいか。そこをイメージすると自分の問題と捉えやすいし、環境や原発の問題を考える、いいきっかけになるのではないのでしょうか。



首都大学東京
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2014年度版

授業改善アンケート結果

実施期間 前期2014年7月9日～22日 / 後期2015年1月8日～26日

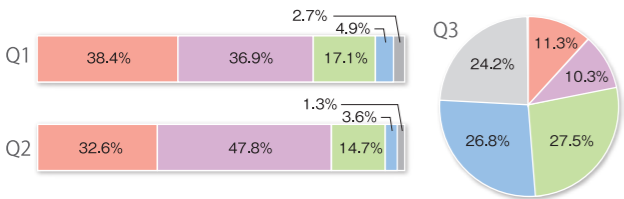
アンケート結果の詳細はFD委員会ホームページに掲載しています。
http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/

基礎ゼミナール

前期▶履修登録者数 1,653人:回収数 1,282人 回収率 77.6%/授業数 80クラス:実施数 66クラス 実施率 82.5%
※前期のみ実施

■こんな意見・提案がありました

- ・班に分かれて様々な提案をしていく形式だったので、協調性や自主性が育ったし、将来役立つ思考力が得られたと思う。
- ・理系・文系の偏りがないようにグループ分けすることで、グループごとの理解度の差が生じにくかった。
- ・レポートやレジュメの作成方法など、他の授業では詳しい講評がもらえない点についても先生の説明があって良かった。
- ・他の班が発表するときは聞いているだけだった。もう少しグループで話し合ったりする時間を作っても良いのでは？



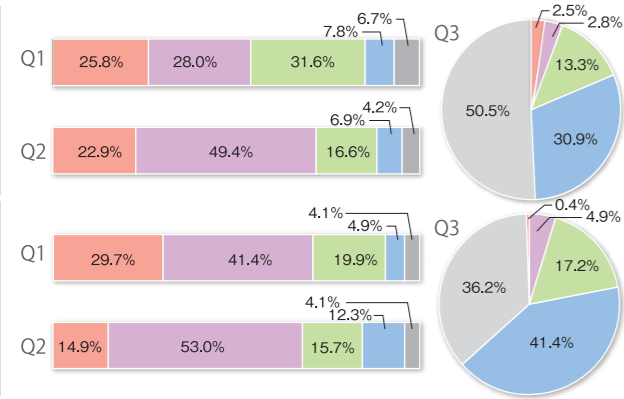
- ・学生から要望があったので、質疑・応答の際は全員が必ず発言するよう促したところ、昨年よりも積極性が感じられるようになった。
- ・学生の所属が様々であるため、取り組む領域をある程度広くとった。それぞれの学生が興味のある分野に取り組めたが、専門的に深めたい学生には物足りなかったと思う。
- ・グループ研究を支援するため機材を貸し出した。実験機材のある研究室に足を運ぶことで、専門の研究への橋渡りになったと思う。
- ・学生に与えた課題の進捗状況やつまづいているところを毎回ワークショップ形式で話し合った。グループによる進捗の差を埋められ、モチベーション向上につながった。

情報科目

前期▶履修登録者数 1,654人:回収数 1,204人 回収率 72.8%/授業数 39クラス:実施数 33クラス 実施率 84.6%
後期▶履修登録者数 403人:回収数 270人 回収率 67.0%/授業数 20クラス:実施数 17クラス 実施率 85.0%
※前期は「情報リテラシー実践Ⅰ・Ⅱ」、後期は「情報リテラシー実践Ⅱ」で実施

■こんな意見・提案がありました

- ・Excelを使用する統計の授業で、関数の統計学的な意味を学びつつExcelで実践していくという学習方法は、理解を深めるのに有効だったと思う。
- ・音楽や画像、映像の編集など、日常生活の中でも活用できることを教えてもらえて良かった。
- ・授業用の教材をいつでも閲覧できる状態にくださったので、予習・復習がしやすかった。
- ・先生の説明を聞くだけの時間があつたが、少しでも操作しながら説明を聞くことができた、より集中して受講できたと思う。



- ・次週に前週の復習をしたり、難しい作業は繰り返し練習するような時間を設けたところ、最低限の知識やスキルは定着したようだ。
- ・情報をまとめる力と訴える力を養ってもらうことを目的に、2分でプレゼンするための資料作りや、30秒の映像を作成する課題を出し、授業中に発表する機会をもたせた。
- ・課題は全員が広く興味を持てるテーマにして、よくできているものは授業で紹介した。モチベーションにつながり、毎回課題を頑張ってくる学生が多く、完成度が高くなった。
- ・「プレゼンも扱ってほしい」という要望があつたが、この科目のカリキュラムには含まれていないこと、授業回数からしても難しいことを説明した。代わりに、参考資料を紹介した。

共通アンケート項目

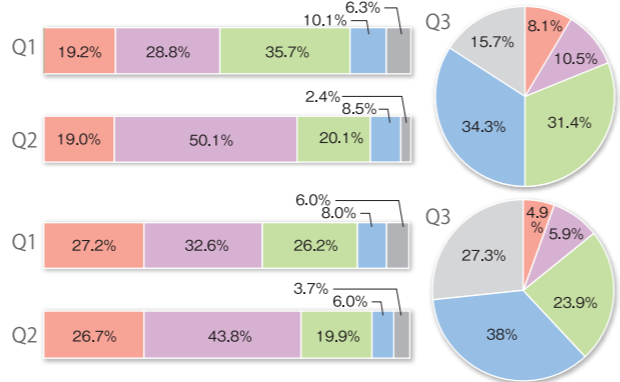
Q1 この授業のシラバスは、授業を選択し、学習するうえで役立つ内容だった。
Q2 授業全体を振り返って、あなたはこの授業を理解できた。
Q3 授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？(予習・復習、課題、試験勉強、この授業の理解をさらに深めるための自主学習を含む。)

実践英語科目

前期▶履修登録者数 1,725人:回収数 1,478人 回収率 85.7%/授業数 94クラス:実施数 90クラス 実施率 95.7%
後期▶履修登録者数 1,596人:回収数 1,243人 回収率 77.9%/授業数 84クラス:実施数 80クラス 実施率 95.2%
※前期は「実践英語Ⅰa」、後期は「実践英語Ⅱb」で実施

■こんな意見・提案がありました

- ・自分たちで解説をする時間があつた。準備は大変だったが、やりがいがあつたし、自分自身もさらに文章の理解を深めることができた。
- ・学生の意見を取り入れたり、理解度を見ながら授業を進めてくれた。
- ・全訳をさせるのではなく、文法が重要なところのみを訳させて、残りは大まかな内容をつかむ授業の方が良いと思う。文法事項は授業でしっかり教えてほしい。
- ・予習していない人が授業で当たると、授業が止まってしまった。きちんと予習してくれるように、もっと強く言ってください！



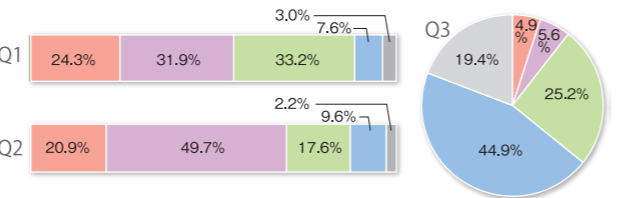
- ・英語が苦手な学生が多かったため、語源や文化的背景に関するトピックを多く取り上げた。現代英語の背景にある深い歴史など、興味をもってもらえたと感じている。
- ・教科書が難しいという意見があり、速度を遅くして丁寧に説明するよう心がけたが、授業があまり進まず、面白みがなくなってしまったように思う。
- ・口頭の説明と板書のみではついて来られない学生がいたので、各ユニットの始めなどに要約プリントを配布したところ、理解度の向上に役立ったと思う。
- ・グループごとに訳を発表する機会をもたせた。予習したものを仲間同士で確認し合い発表する作業を通じて、また、お互いに教え合うことで、自らの学習に役立ったようだ。

未修言語科目

後期▶履修登録者数 1,951人:回収数 1,426人 回収率 73.1%/授業数 107クラス:実施数 93クラス 実施率 86.9%
※後期のみ「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「朝鮮語Ⅰ」で実施

■こんな意見・提案がありました

- ・予習を前提とした授業で、暗唱テストが毎回あつたので、勉強する習慣が身に付いた。
- ・語源も教えてくださったおかげで覚えやすかった。丸暗記にならずに済んだ。
- ・留学生とグループワークを行うなど、もう少し授業内でコミュニケーションをとる機会があると良いと思う。
- ・クラスによって内容や課題の量が違うのは改善してほしい。
- ・遅刻者と初めから出席していた人が同じ扱いになるのは不公平です。



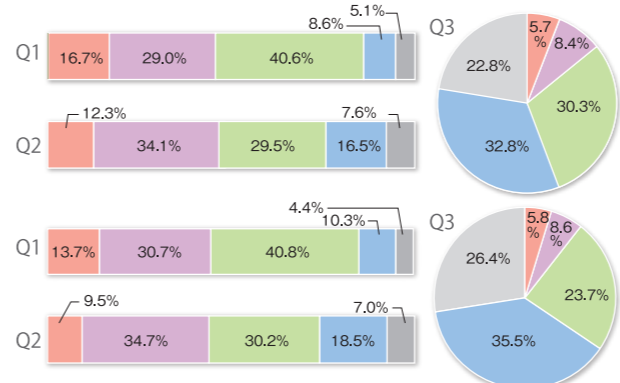
- ・授業の到達目標について学生の要望を聞き、それに合った学習プログラムを選択(到達レベル、会話中心、インタラクティブ等)。学生がより積極的に授業に参加するようになったと思う。
- ・後期プロジェクト学習の成果物を、学生の要望をうけ、動画もOKとした。自ら提案することで自分たちが行う課題への責任感が高まったと思う。
- ・学生全員にドイツ語で自己紹介文を書かせてプレゼンさせた。学生たちが、ドイツ語で書いて発音することの楽しさと難しさを体感できていた。
- ・フランス語の文法をもっと勉強したいという要望があつたので、後期はほぼ毎回プリントや練習問題を取り入れ、小テストも月2回程度行った。学習習慣が身に付き、意欲も語学力も向上した。

理系共通基礎科目

前期▶履修登録者数 4,798人:回収数 3,212人 回収率 66.9%/授業数 66クラス:実施数 57クラス 実施率 86.4%
後期▶履修登録者数 3,768人:回収数 2,273人 回収率 60.3%/授業数 58クラス:実施数 47クラス 実施率 81.0%

■こんな意見・提案がありました

- ・授業の最後に、自分で授業内容をまとめる時間があつたので、しっかりついていくことができた。
- ・授業内容をスライドでコンパクトにまとめ、それをウェブでいつでも見られるようにしてくれたのが良かった。
- ・定義や定理についての説明を特にしっかりやってくれたのが良かった。ただのテクニックに終わらず、理解して覚えることができたと思う。
- ・黒板を消すのが早かったり、黒板の上げ下げで字が見えなくなったりした。もっとつめて板書するなど、学生のペースを見ながら進めてほしい。



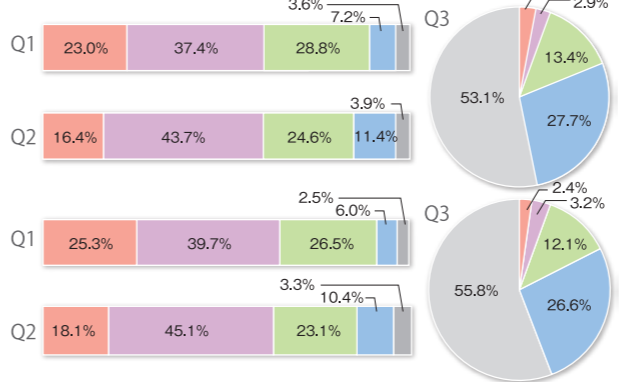
- ・高校の範囲を忘れている学生が多いので復習から始めているが、あまり時間を割くと本来ここで学ぶべき内容を教えられなくなるというジレンマがある。
- ・レポートを多めに課したので、学力は向上した。基本的に学生からの要望はなく、こちらから動いていかなないとダメだと思っている。
- ・分子模型を使用して3次元の形がわかるように工夫した。学生は模型を手取ることで興味をもち、理解度も増したと思う。
- ・毎回の講義時間内にレポート作成を支援し、考案についてのアイデアや実験の理論的背景を説明したところ、考案内容が充実し、理解度が高まった。

教養科目群・基盤科目群

前期▶履修登録者数 13,254人:回収数 7,049人 回収率 53.2%/授業数 92クラス:実施数 79クラス 実施率 85.9%
後期▶履修登録者数 10,443人:回収数 5,007人 回収率 47.9%/授業数 89クラス:実施数 67クラス 実施率 75.3%

■こんな意見・提案がありました

- ・学生に質問をさせて、考えさせようとする点が面白かった。理解を深められたし、集中して取り組むことができた。
- ・オムニバス形式の授業なので、様々な先生から多角的な視点で話を聞いたのが良かった。
- ・モスク見学があり、教室での学習と実際の文化の体験とが関連づけられる良い授業だったと思う。
- ・先生の話し方やプレゼンの仕方があまりうまくなかった。もっと「人に伝える」ということを考えてほしい。



- ・レポート提出の時期を早期、授業内で内容の講評をしている。学生たちが講評を聞いて勉強し、書き改めることで、期待以上に良いレポートに仕上がってくる。
- ・試験時は持込可にしてほしいという要望があるが、準備をしない者が増え、結果として全体の成績が下がることから、持込不可とする旨を説明している。
- ・毎回、学生に提出してもらうリアクションペーパーに基づいて、より深く掘り下げた内容も講義で紹介している。深い理解を得られる反面、ついて来られない学生もいた。
- ・資料を事前に配布し、授業では専門用語をわかりやすい言葉で説明するようにした。学生からは深い内容についての質問もあり、授業内容は概ね伝わっていたと思われる。

FD委員から学生の皆さんへ

2014年度FD委員会委員

都市教養学部理工学系化学コース

海老原 充 教授



大学での教育は、中学や高校でのそれと大きく異なるところがあります。学生の皆さんは入学して、大学の授業をうけていて何となく不安になったことはありませんか。高校での授業では、教科書も、参考書も、場合によっては教科書ガイドも揃っていて、大変勉強しやすかったのに、大学に入るとそうした手厚い助けは期待できず、どう勉強して良いかわからない不安。こうした不安は私自身も経験し、試行錯誤で不安と格闘したことを今でも良く覚えていますが。でも、今考えると、あのときの不安と、それと格闘しながらの勉強は、その後の大学での専門課程での学習や、大学院での研究・学習をこなす上で随分プラスに働いたように思います。

こと、授業内容に限っても、大学で学ぶことは多種多様で、人それぞれです。この点でも画一的な高校での学びと大きく違います。大学卒業後は大学で学んだ知識を活かして専門分野で活躍する、そのための専門知識を身につけることは、大学生として最低限必要でしょう。でも、それだけではもったいないと思います。本学には様々な分野で活躍し、かつ、豊富な経験と知識・見識をもった先生がたくさんいます。専門学校でない、総合大学で学ぶことを是非実感し、少しでも見識を広めて下さい。それに答えるために、我々教員は日々研鑽していると自負しています。

最近、私の専門分野の先輩で、世界的に著名な某大学名誉教授が書いた回顧録を読んで、次のような文章が目にとまりました。自分は大学で学生を教えたのではなく、学生に教えられ、研究者として育てられたのだ、と。その文章に接し、確かに自分自身も最近、その様に考えていることに気づかされました。大学は教員と学生が互いに教え合い、学ぶ場であると思います。本学では学期末に「授業改善のためのアンケート」を実施していますが、そうした相互関係や学びの場をより良くするための手段として、積極的に活用して下さい。

FDとは・・・Faculty Developmentの略。授業改善のための組織的な取組をいいます。

首都大学東京では、授業改善のための組織的な取組として、授業アンケートの実施や教員向けのFDセミナーの開催など、さまざまな企画・活動を行っています。学生の皆さんも、これらの活動に積極的にご参加ください！



～FDセミナーから～ 「良い授業」ってどんな授業？

皆さんにとっての「良い授業」とは、どのような授業でしょうか？これは、本学のFDセミナーに講師としてお招きした関西大学の三浦真琴教授からの問いです。三浦先生が今まで尋ねてきたところ、次のようなことがわかったそうです。「面白い⇔つまらない」「わかる⇔わからない」の二本の軸で分けた時、学生の多くは「わからないけど面白い」授業を選びます。「そこから先がわからない」「わからないところがある」けれども「面白い」ので、その先やわからないところを自分で調べたくなってしまふ、あるいは先生に質問したくなる、ということなのだそうです。何から何まで、全てを手取り足取り教えてもらうとは違う奥深さ、奥行きを感じられるのが大学らしい授業だ、と多くの学生は感じているのではないかと、この考えを示されました。また、「問いとは与えられるものである」という考え方、姿勢を身につけてしまふと、社会に出ても指示待ち族になってしまふ、という警告がありました。自分にとっての「良い授業」にするためにも、皆さん自身が「問い」を見つけ、学びを深めて行ってほしいと思います。

授業改善アンケートの詳細やFDのトピックスは首都大学東京FDウェブサイトでも紹介！



アンケート集計グラフのほか、「Study+」のバックナンバーやセミナーの報告など、さまざまな情報を掲載しています。



スマホはこちらから ▶ <http://www.comp.tmu.ac.jp/FD/>